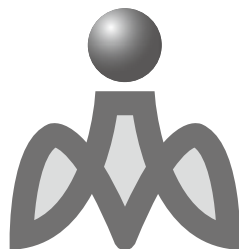


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成25年1月～3月実績〕
〔平成25年4月～6月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目でみる業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目でみる業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目でみる業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目でみる業況	12

【Ⅰ】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区 11商工会
 (2) 対 象 企 業 数 165企業
 (3) 回 答 企 業 数 165企業

2. 調査対象期間

第4四半期 平成25年1月～3月期
 調査時点 平成25年3月1日

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を11商工会の経営指導員が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービス業	計
都 留 市	3	2	4	6	15
韮 崎 市	3	3	4	5	15
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	3	3	4	5	15
甲 州 市	3	3	4	5	15
中 央 市	4	2	6	3	15
身 延 町	4	2	5	4	15
富 士 川 町	3	2	4	6	15
河 口 湖	4	2	6	3	15
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

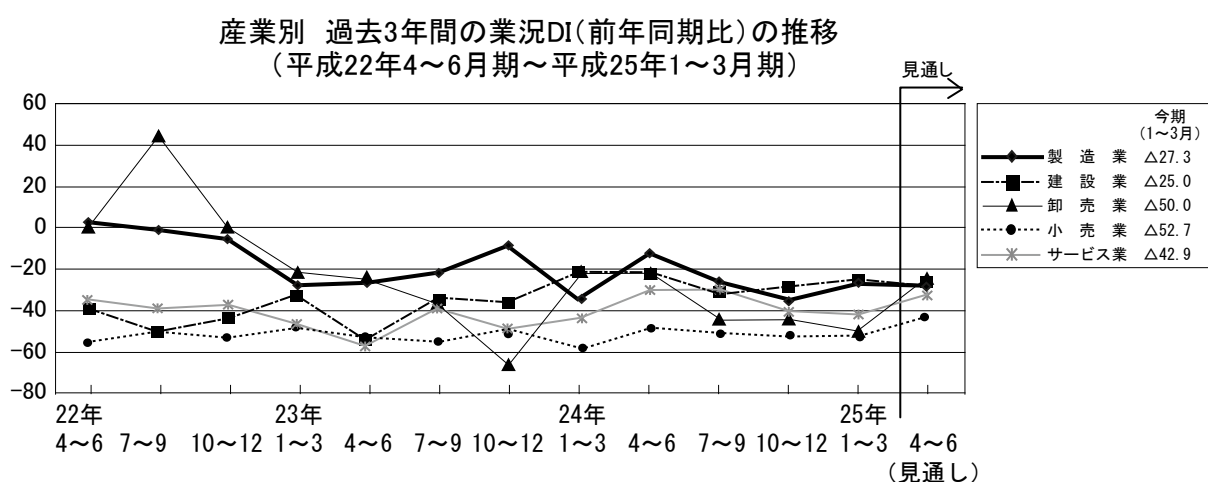
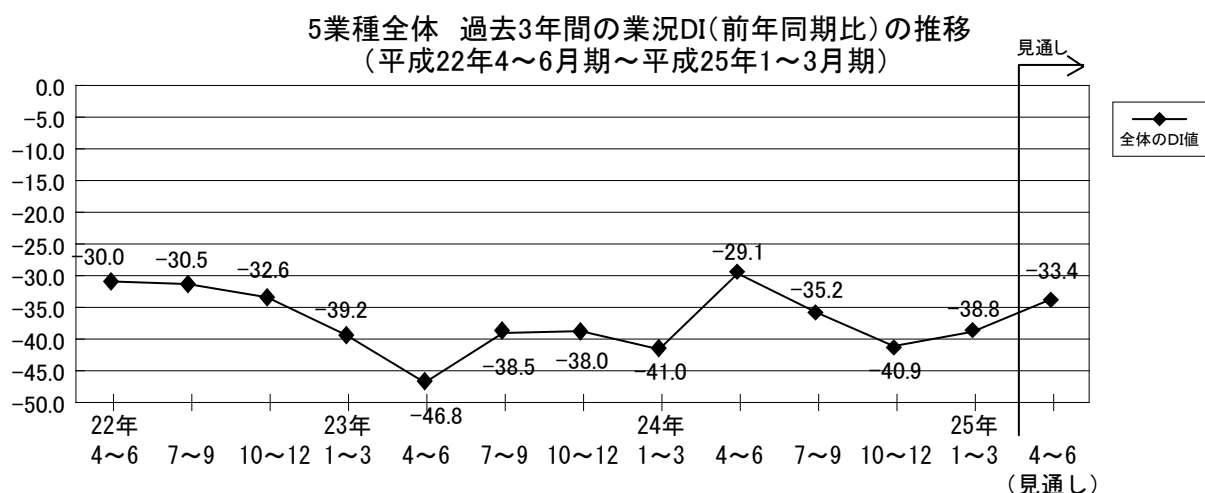
②次頁【Ⅱ】1. 産業全体の業況概観・・・については、本県商工会地区の企業ばかりでなく本県全体の被調査企業（卸売業を含む）287サンプルによるものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県5業種の業況概観について、調査対象287企業のデータに基づいて産業別の業況DIを示す。まず下記の上図は、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIを表したものである。業況DIは前期マイナス40.9だったが、今期は僅かに改善しマイナス38.8であった。来期の見通しは、改善基調が続き5.4ポイント上昇しマイナス33.4である。

下図は今期の景況感をやはり前年同期と比較して、過去3年間の推移を本県製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業5業種別に示したものである。製造業は、前期マイナス35.7から8.4ポイント改善しマイナス27.3である。建設業も、前期マイナス28.2から僅かの改善のマイナス25.0であった。卸売業は、前期マイナス44.4だったが5.6ポイント悪化し、ちょうどマイナス50.0となった。小売業は、前期マイナス52.1とほとんど変わらないマイナス52.7であった。サービス業も小売業と同様の傾向で、前期マイナス41.5からマイナス42.9とほぼ横ばいであった。前期と比べ、業況DIが改善したのが製造業と建設業、横ばい傾向が小売業とサービス業、悪化が卸売業という色分けになった。



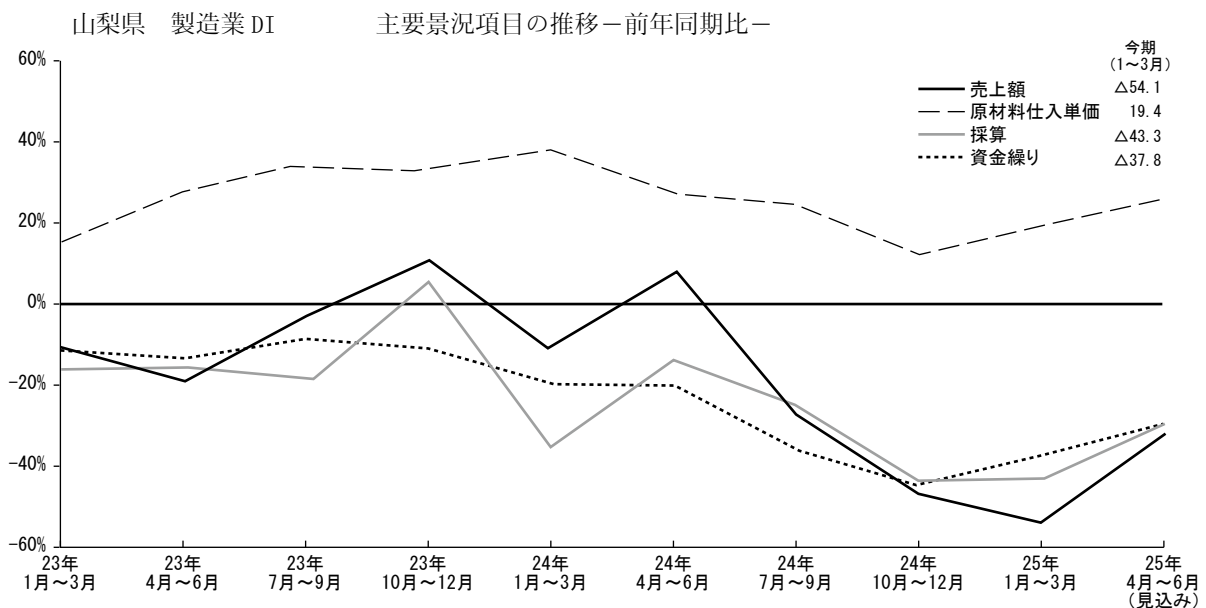
【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域からの122企業を含めた287サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

2. 製造業の動向

1. 景況概観

下図は、製造業の過去2年間の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」の推移状況を表わしたものである。売上額D Iについては、前期マイナス46.0から8.1ポイント悪化してマイナス54.1となった。3期続けての低下傾向にあり、しかもついにマイナス50.0を上回るという最近にない深刻な状況である。来期の見通しについては、20ポイント以上の改善のマイナス32.4である。

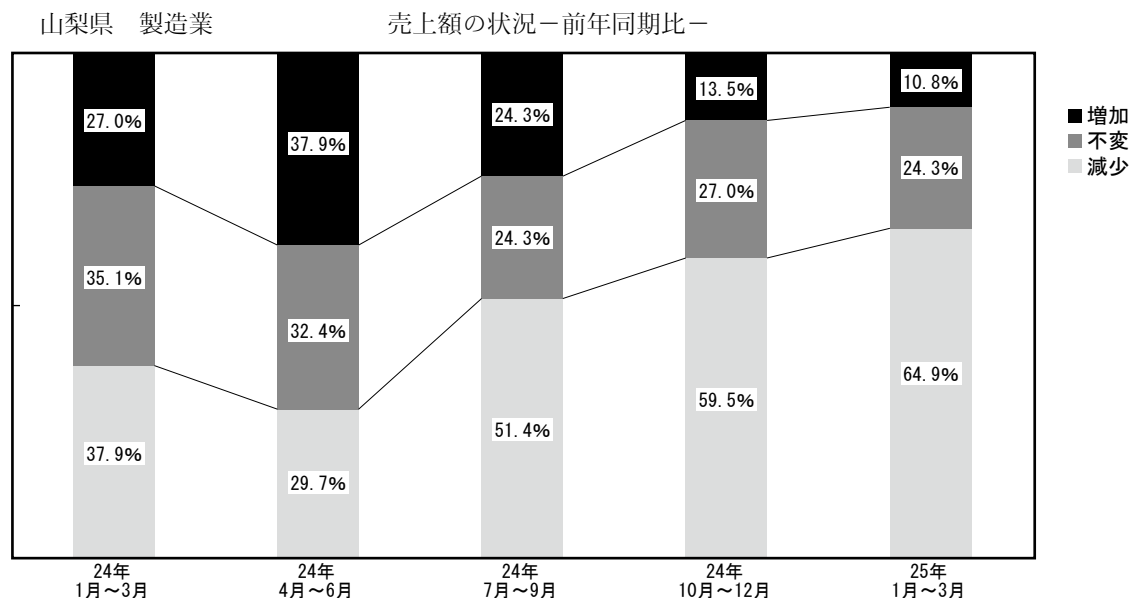
原料仕入単価D Iは、前期12.1から再び上昇し19.4となった。来期の見通しについても、今期と比べ6.4ポイント上がり25.8である。採算D Iは、前期マイナス43.2と厳しかったが、今期も横ばいのマイナス43.3である。来期の見通しについては、前回と同様のマイナス29.7である。資金繰りD Iは、前期マイナス44.4から6.6ポイントの改善を見せマイナス37.8であった。来期の見通しは、さらに8.1ポイント改善期待のマイナス29.7である。



2. 主な項目で見る業況

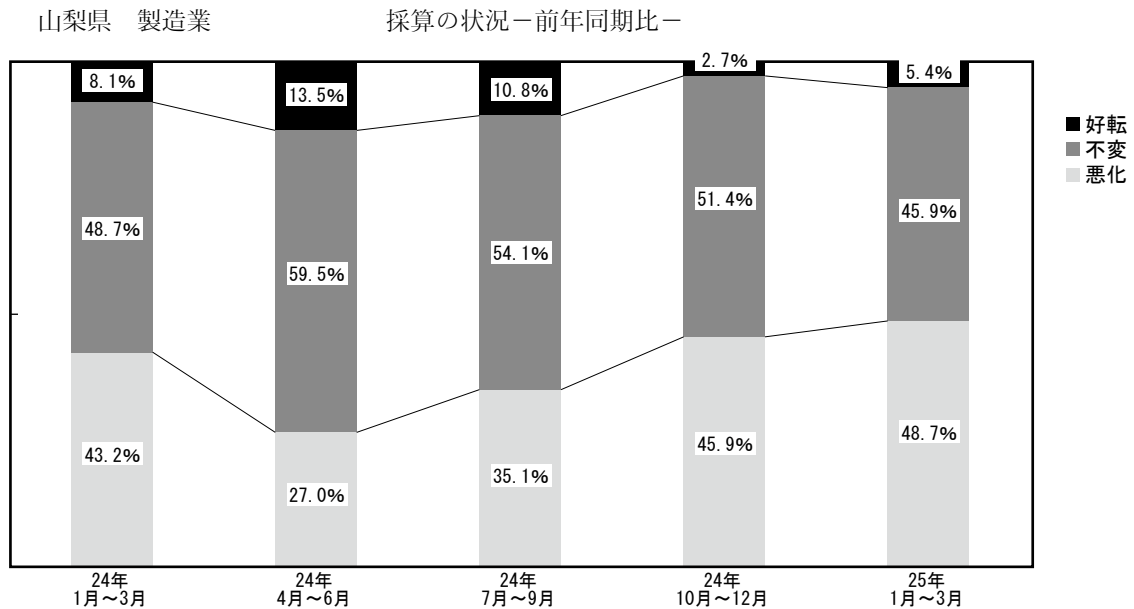
(1) 売上額

下図は、過去1年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の推移を示したものである。ここでは、前記した当期の売上額D I マイナス54.1となった回答の中身を見てみよう。「増加」と答えた企業の割合は前期5社から1社減り10.8%であった。「不変」は前期10社であったが1社減って24.3%、「減少」は前期22社の59.5%から2社増加の64.9%であった。前期の「増加」と「不変」企業が1社ずつ「減少」に転じ、悪化したことが分かる。



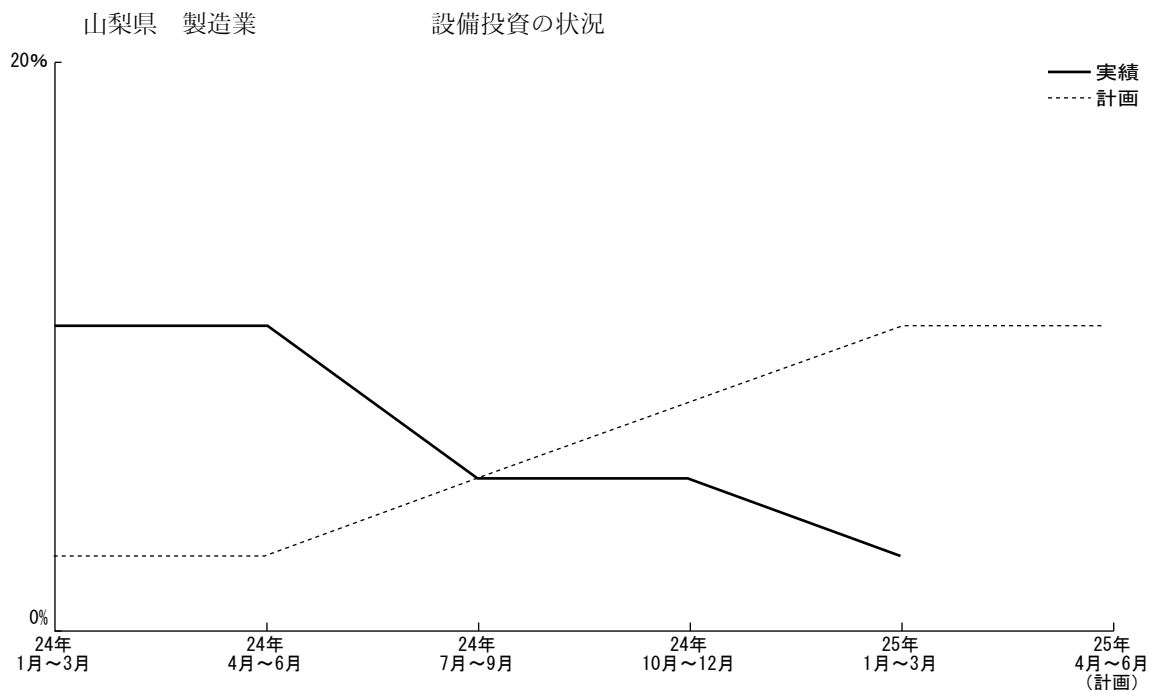
(2) 採 算

本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。今期の採算D I マイナス 43.3 についても、その詳細を見てみよう。「好転」が前期 1 社のみの 2.7% から 2 社になり 5.4% に、「不変」は前期 19 社から 2 社減り 45.9%、「悪化」は前期 17 社の 45.9% から 1 社増の 48.7% となった。「好転」および「悪化」がそれぞれ 1 社増加し、採算D I は変化がなかった。



(3) 設備投資

下図は、過去 1 年間余りの「設備投資」の状況を示したものである。今期において、設備投資を行った企業は 1 社のみで前期より 1 社減った。その設備投資内容は「生産設備」であった。今期における来期の計画については、前期と同様の 4 社で「生産設備」が 3 件、「O A 機器」が 2 件、「車両・運搬具」が 1 件である。

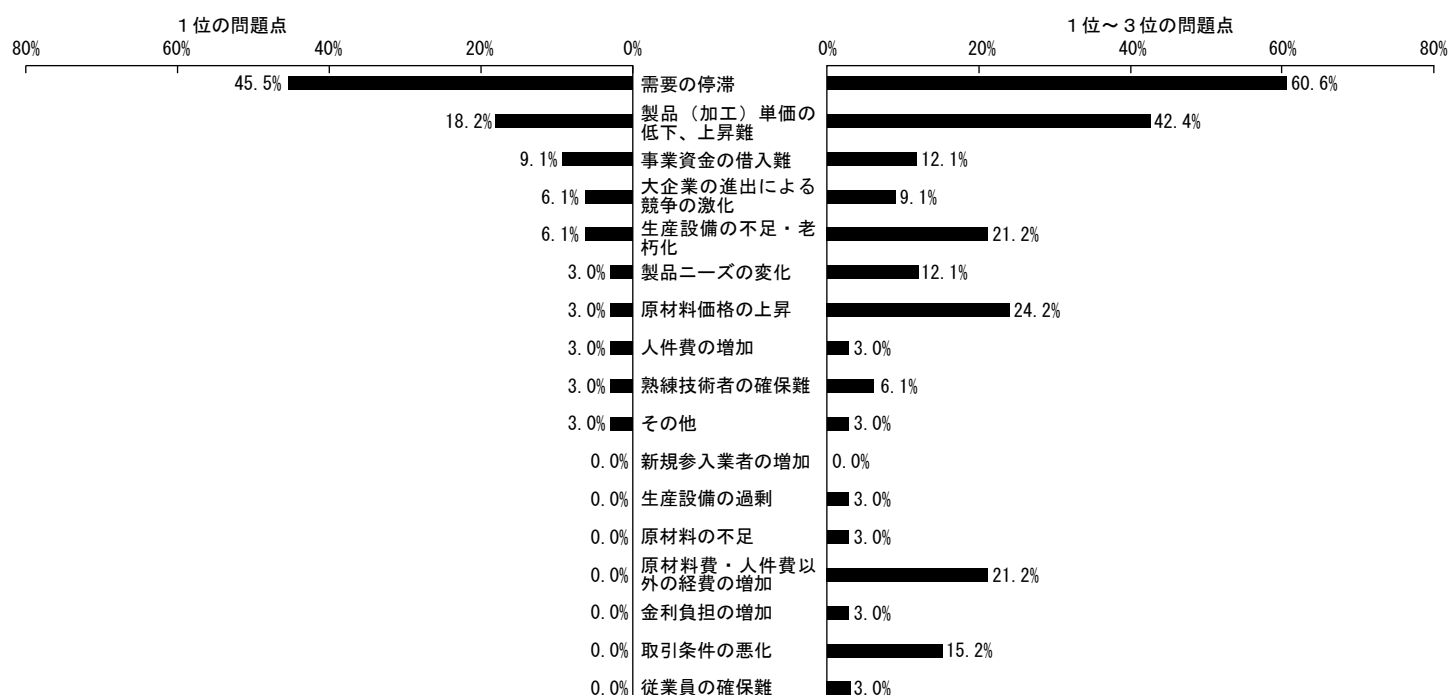


(4) 経営上の問題点

製造業における「経営上の問題点」は、下図のとおりである。まず最優先事項の問題点である「一位」に挙げたものから見ていくと、前期トップ 36.7%であった「需要の停滞」が、今期も最も多く 15 社の 45.5%と 8.8 ポイント増加した。2 番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」で 6 社が挙げ 18.2%と続く。3 番目は、前期と同様「事業資金の借入難」を 3 社が挙げ 9.1%である。その他は 2 社が答えるに止まり、「大企業の進出による競争の激化」と「生産設備の不足・老朽化」であった。

次に「一～三位」を見ると最も多い答えは、相変わらず「需要の停滞」で前期 20 社と同じ 60.6%となった。2 番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」で、4 期続けて 14 社が答えての 42.4%であった。続いて「材料価格の上昇」が 8 社の 24.2%、「生産設備の不足・老朽化」と「原材料費・人件費以外の経費の増加」が 7 社で 21.2%となった。以降、「取引条件の悪化」が 5 社の 15.2%で、そのあとの項目は 4 社以下の回答である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	8	21.6
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	5	13.5
窯業・土石製品製造業	2	5.4
金属製品製造業	1	2.7
一般機械器具製造業	7	18.9
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	3	8.1
その他製造業	5	13.5
合 計	37	100.0

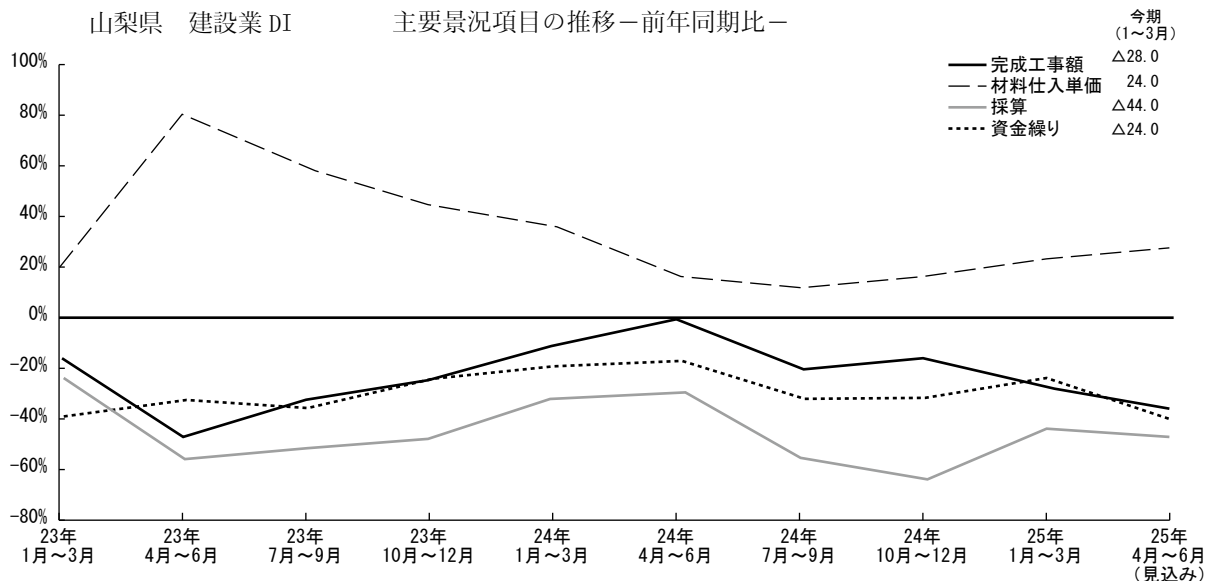
従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	18	48.6	13	35.1
3 人～5 人以下	9	24.3	10	27.0
6 人～10 人以下	4	10.8	6	16.2
11 人～20 人以下	3	8.1	2	5.4
21 人～50 人以下	3	8.1	6	16.2
合 計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

1. 景況概観

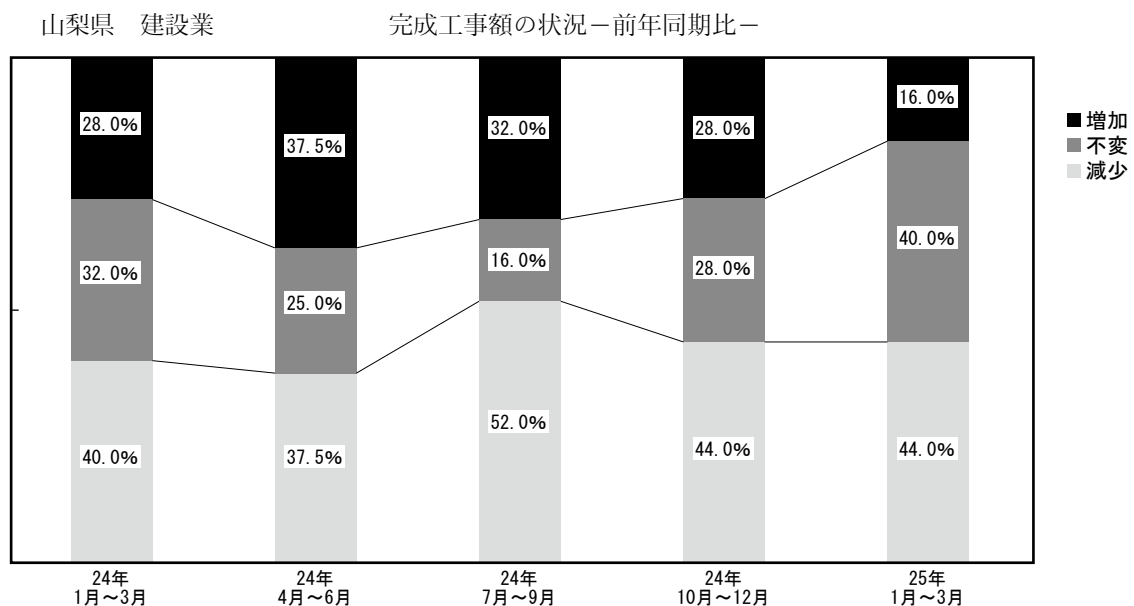
完成工事額D I は、前期マイナス 16.0 からかなりの悪化でマイナス 28.0 であった。来期の見通しについては、さらに悪化してマイナス 36.0 である。大型補正予算が組まれて期待感が高まっている建設業界であるが、本県中小建設業者には余り好影響をもたらしていないのであろうか。材料仕入単価D I は、前期 16.0 であったが 8.0 ポイント上昇し、24.0 であった。来期の見通しは、さらに上がり前期見通しと同じ 28.0 である。円安や復興需要等で資材の上昇傾向は続くようだ。採算D I は、前期マイナス 64.0 より 20 ポイント改善しマイナス 44.0 と明るい材料だ。来期の見通しについては、僅かな変化であるが再びの悪化のマイナス 48.0 となる。資金繰りD I については、前期マイナス 32.0 から 8.0 ポイント改善しマイナス 24.0 であった。来期の見通しは、大きく悪化しマイナス 40.0 である。



2. 主な項目で見る業況

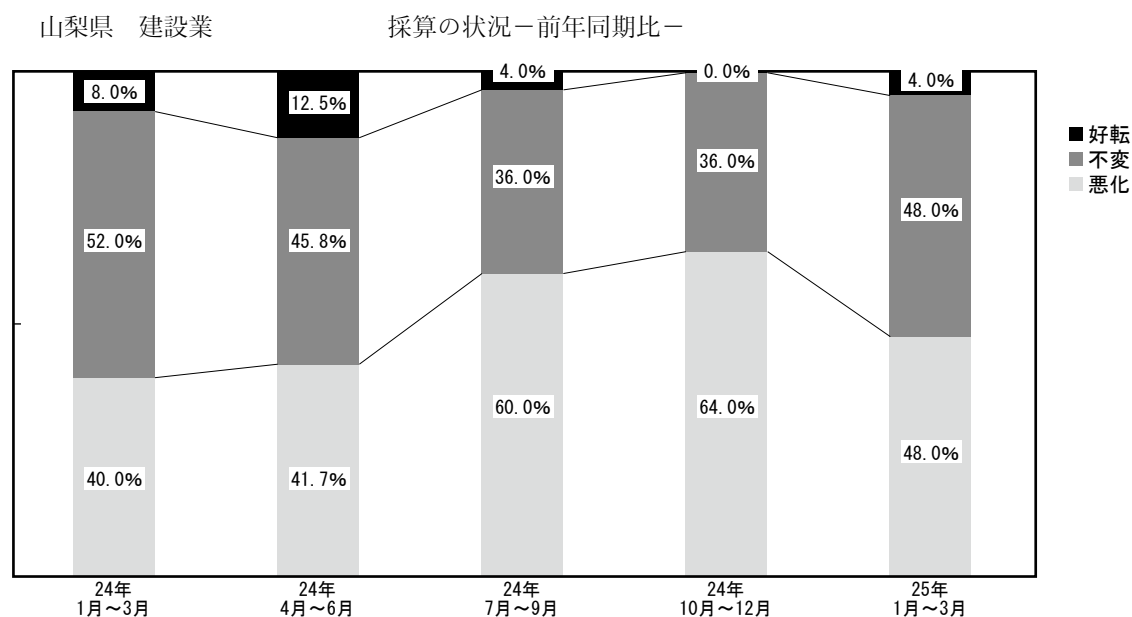
(1) 完成工事額

過去 1 年余の「完成工事額」の状況の推移を表わしたものが下図である。今期完成工事額D I のマイナス 28.0 の内訳をみると、「増加」が前期 7 社の 28.0% から 4 社までに減って 16.0% となった。「不変」は、前期 7 社の 28.0% から 10 社に増え 40.0% になった。よって、「減少」は前期と同様の 11 社で 44.0% と変わらない。ちなみに、今期の受注（新規契約工事）額についてみると、前期D I マイナス 20.9 から 10 ポイント以上の悪化でマイナス 32.0 と厳しい。来期の見通しについても、今期と変わらないD I が続く。



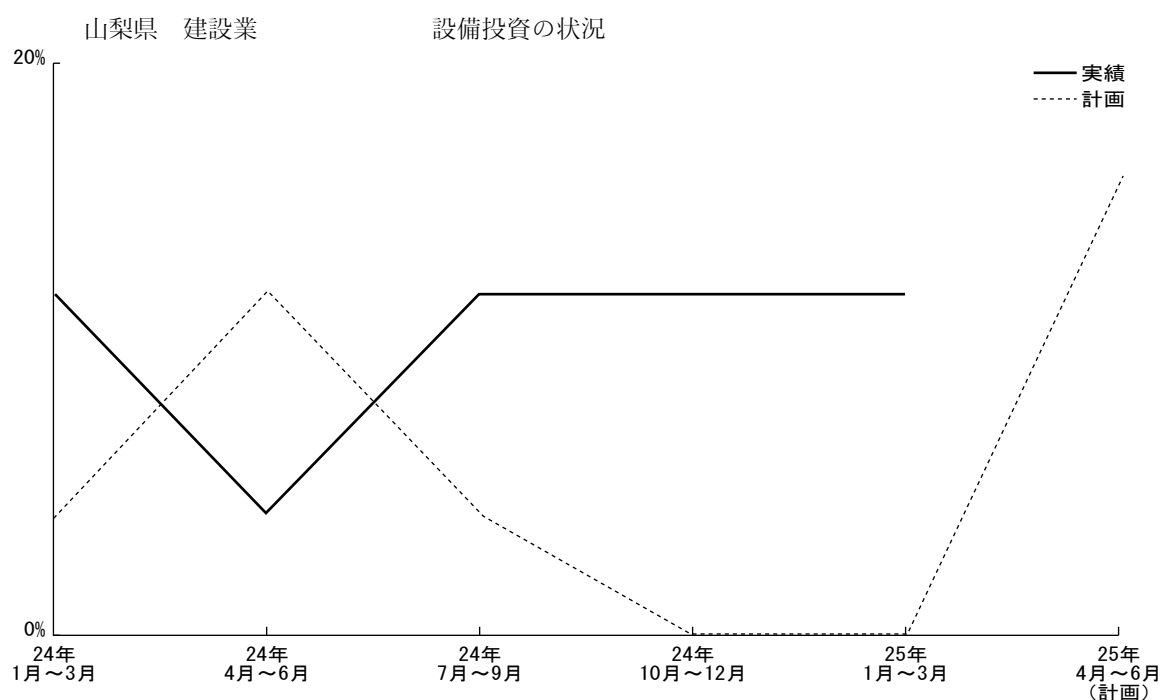
(2) 採 算

「採算」状況の詳細を見ると下図のようになる。今期採算D I マイナス 44.0 の内訳は、「好転」が前期ゼロであったが1社に戻り 4.0%であった。「不変」は前期9社の 36.0%から12社の 48.0%に、「悪化」は前期16社の 64.0%から「不変」と同数の 48.0%となった。今期D I の改善の主要因は、「悪化」が4社減ったことである。



(3) 設備投資

設備投資を実施した企業は、3期続けての3社であった。その内容は、「建物」「車両・運搬具」「OA機器」「その他」が各1件である。来期の計画については、1社増え4社が行うとしている。その内容は、「建物」「建設機械」「OA機器」「その他」それぞれ1件ずつである。

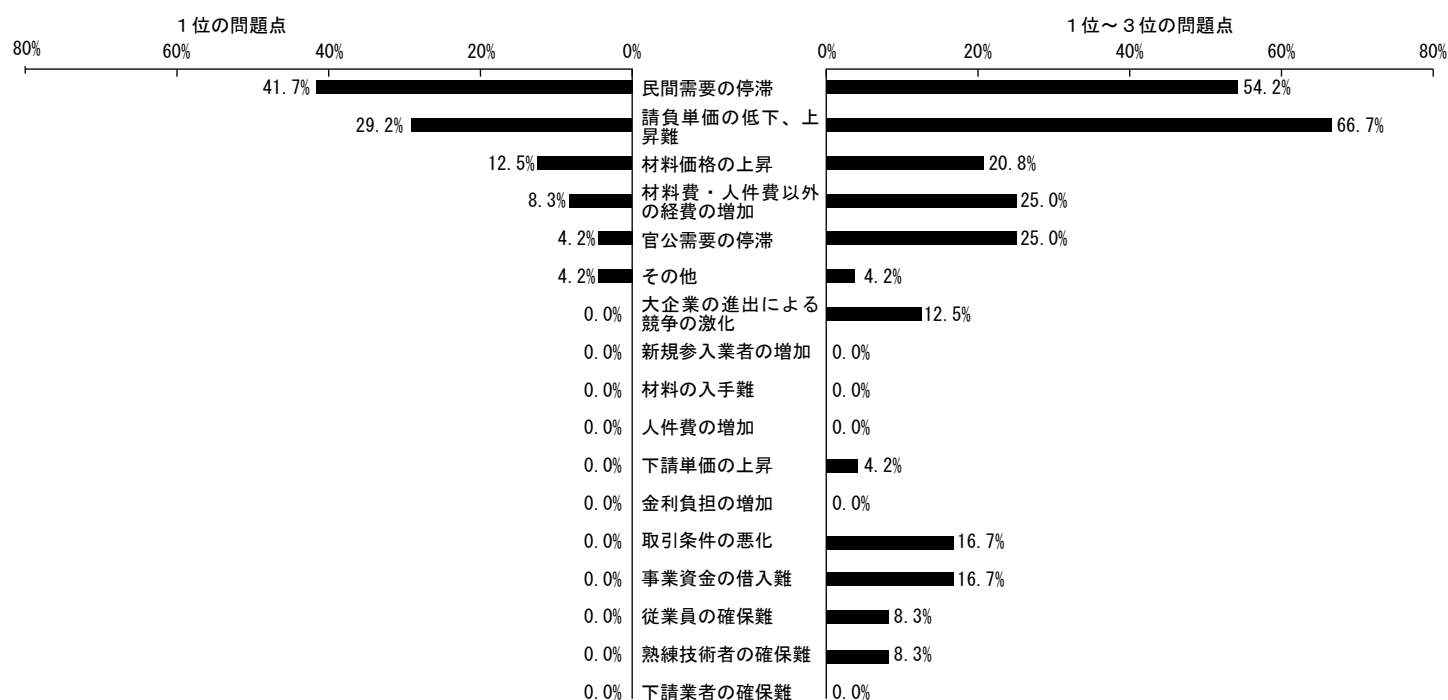


(4) 経営上の問題点

「一位」に挙げたものから見ていくと、最も多い答えは再び「民間需要の停滞」で、10社が挙げ41.7%であった。前期より6社増え前々期並みに戻った。続いて「請負単価の低下、上昇難」で前期9社の36.0%から2社減の29.2%であった。この二つの問題点が突出している。その他の問題点は、「材料価格の上昇」が3企業、「材料費・人件費以外の経費の増加」が2企業に止まった。それ以外の答えは1企業のもののみであった。

次に「一～三位」をみると「一位」の回答の一・二番が入れ替わっている。「請負単価の低下、上昇難」を16社が挙げ66.7%、前期の18社より2社減っている。「民間需要の停滞」は、前期14社の56.0%から1社減の13社の54.2%であった。次に多いのは6社で、「材料費・人件費以外の経費の増加」と「官公需要の停滞」の25.0%である。「材料価格の上昇」が5社の20.8%と続く。それ以外の回答は4社以下である。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
総合工事業	17	68.0
職別工事業	5	20.0
設備工事業	3	12.0
合 計	25	100.0

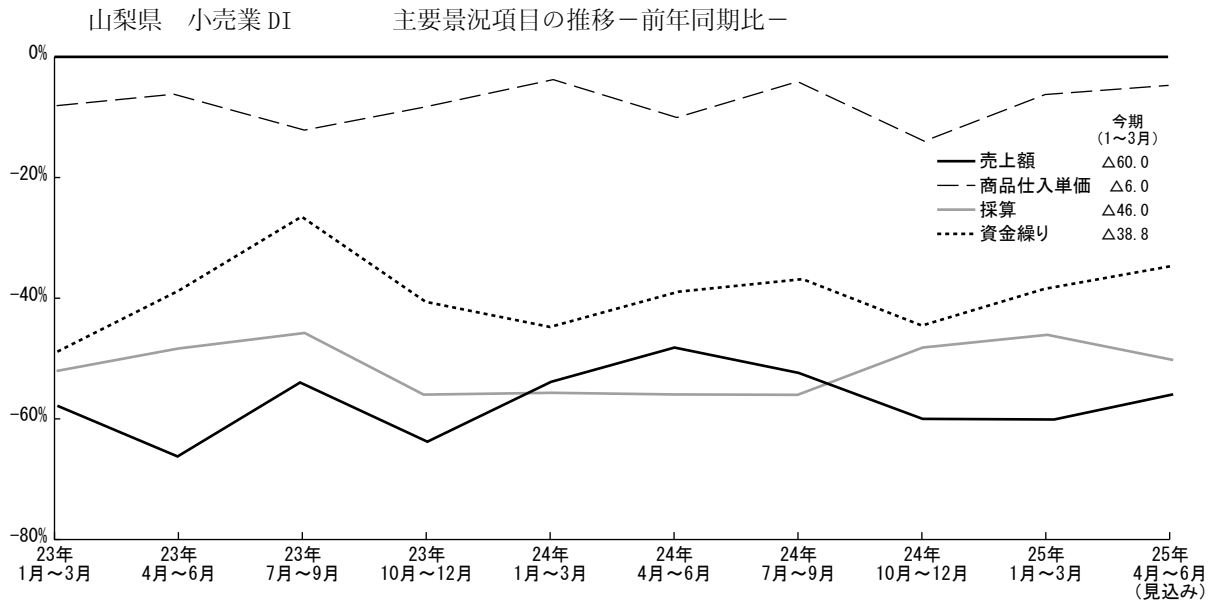
従業員規模別

従業員数 \ 雇用形態	常 雇 い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	8	32.0	6	24.0
3人～5人以下	7	28.0	8	32.0
6人～10人以下	3	12.0	4	16.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
21人～50人以下	2	8.0	2	8.0
合 計	25	100.0	25	100.0

4. 小 売 業 の 動 向

1. 景 況 概 観

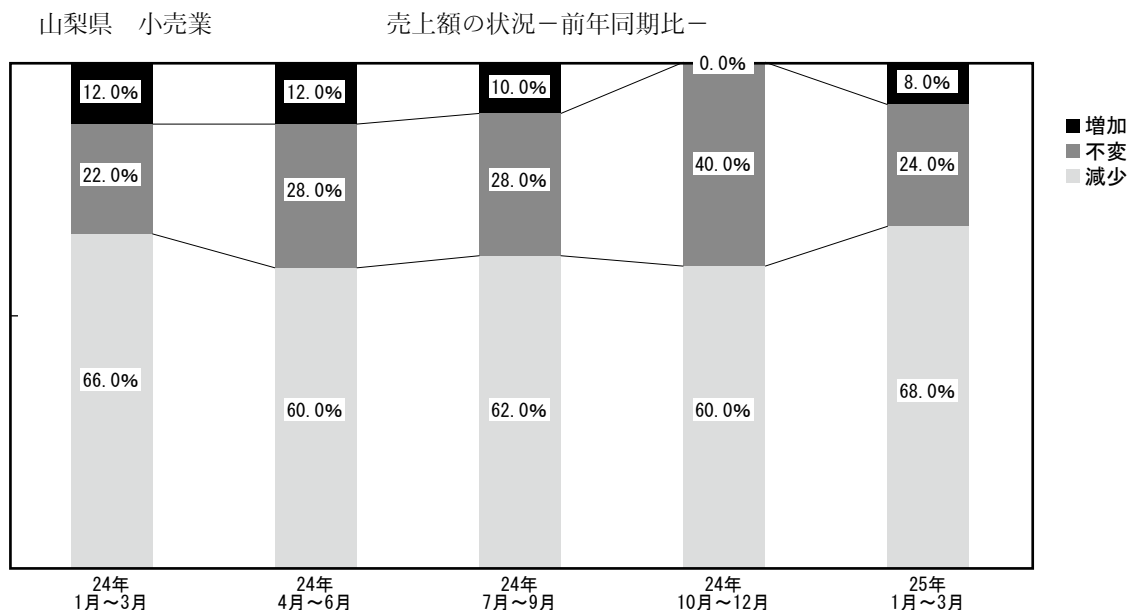
売上額D I は、前期マイナス 60.0 と変動がなかった。来期の見通しは、僅かな改善予測のマイナス 56.0 である。商品仕入単価D I は、前期マイナス 14.0 からマイナス 6.0 と上昇を見せた。来期の見通しは、さらにマイナス 4.0 と上昇傾向が続く。採算D I は、前期マイナス 48.0 からほぼ横ばいのマイナス 46.0 であった。来期の見通しについては逆戻りしマイナス 50.0 である。資金繰りD I は、前期マイナス 44.9 から 6.1 ポイントの改善のマイナス 38.8 である。来期の見通しは、マイナス 34.7 と改善が続く。



2. 主な項目で見る業況

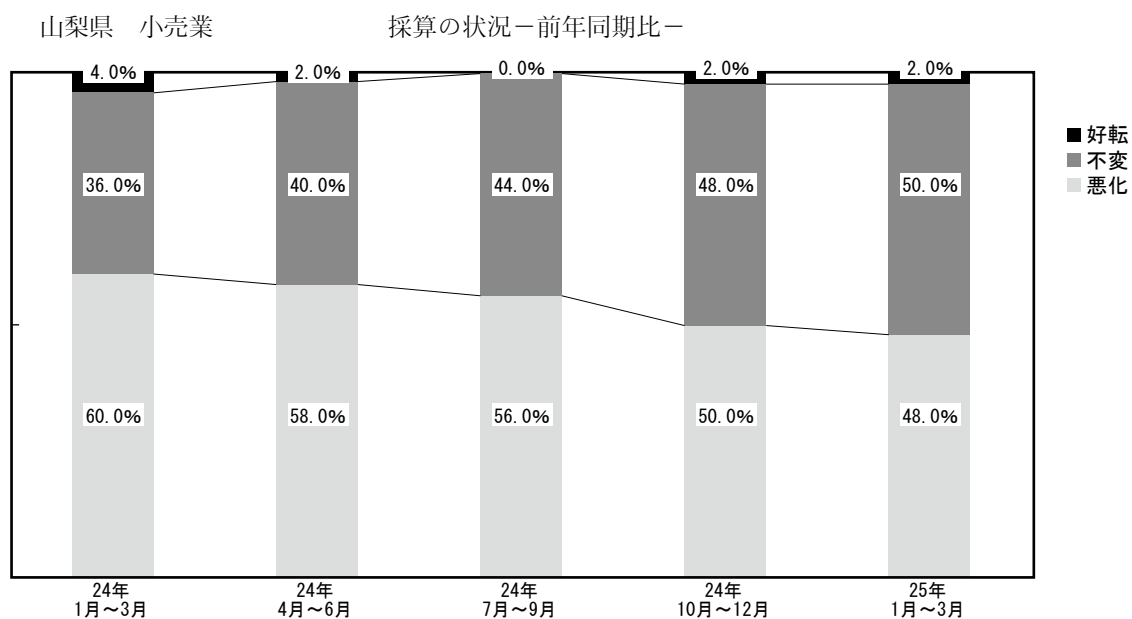
(1) 売上額

下図は、ここ1年間余りの「売上額」状況の推移を示したものであるが、今期の売上額D I マイナス 60.0 の中身を分析してみると次のとおりである。「増加」と答えた企業は、前期ゼロ回答であったが4社になり 8.0%である。「不変」企業は、前期 20 社の 40.0% から 12 社に減り 24.0%になった。「減少」企業は、前期 30 社の 60.0% から 4 社増の 68.0%であった。前期と変わらない売上額D I であったが、その中身においては「増加」および「減少」回答企業が4社ずつ増えた。



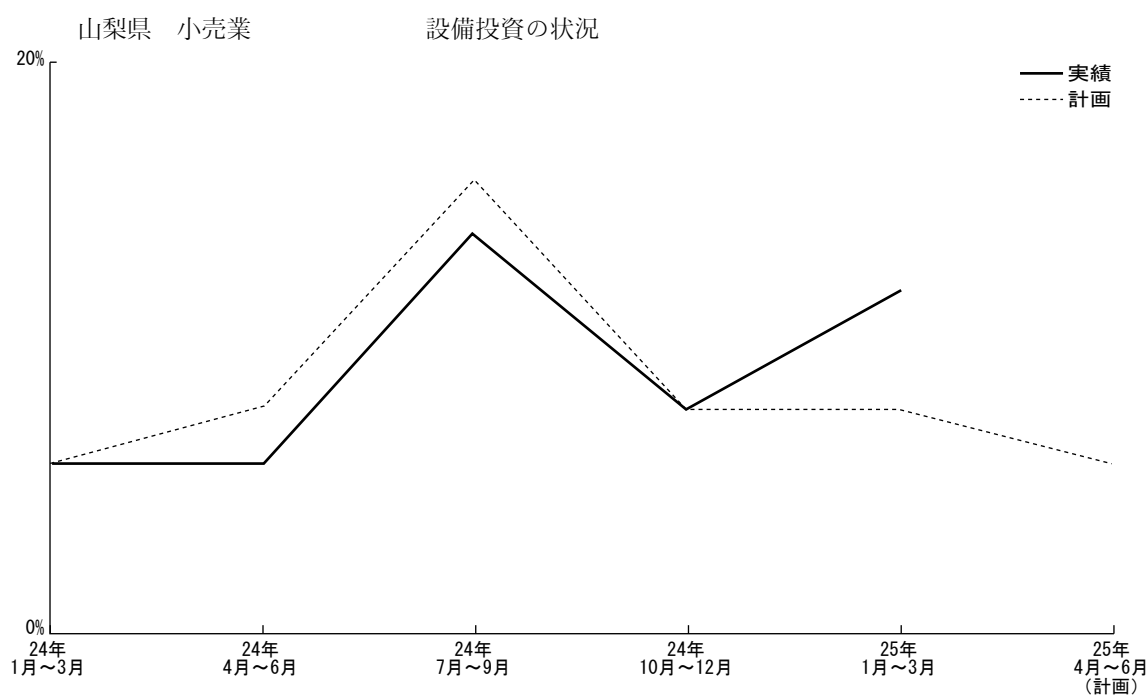
(2) 採 算

下図は、この1年間余りの「採算」状況の推移を示したものである。今期の採算D I マイナス 46.0 の内訳をみると、「好転」が前期1社と変わらず、「不変」は前期24社の48.0%から1社増えて半数の50.0%、「悪化」こちらは半数25社から1社減の48.0%となった。今期においては、1社が「悪化」から「不変」に移行しただけであるので、2.0ポイントという僅少な改善に止まったのである。



(3) 設備投資

小売業の今期における「設備投資」状況をみると、前期4社から6社に増えた。その内容は「車両・運搬具」と「その他」が2件ずつ、「付帯施設」と「OA機器」が各1件であった。来期に設備投資を計画している企業は、今期の半数の3社である。その内容は、「店舗」「販売設備」「その他」がそれぞれ1件である。

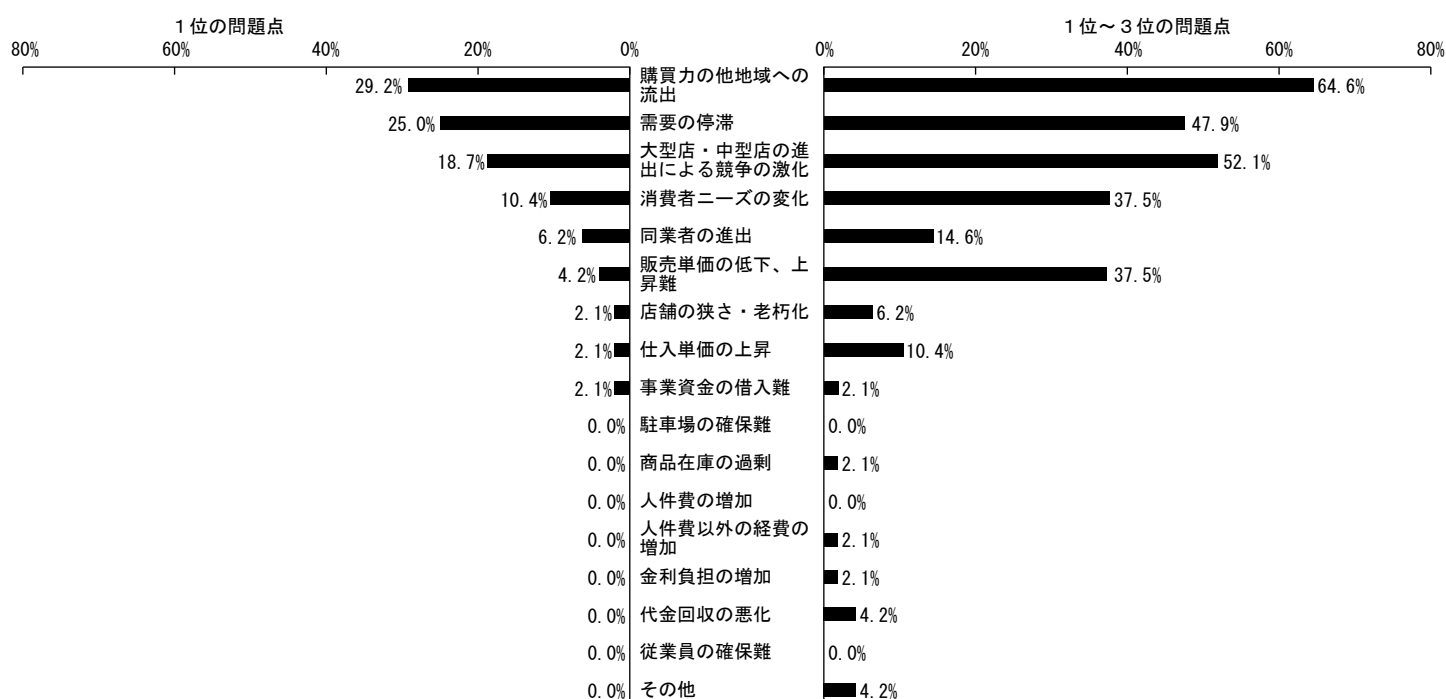


(4) 経営上の問題点

「一位」に挙げてもらったものから見ていくと、前期と同じ「購買力の他地域への流出」がトップで、前期 13 社の 26.5% から 1 社増えて 29.2% であった。次に多い答えは、こちらも前期に続き「需要の停滞」で 12 社 25.0% と前期と変わらなかった。3 番目は「大型店・中型店の進出による競争の激化」で、前期 12 社から 3 社減の 18.7% となった。続いて、「消費者ニーズの変化」を 5 社が挙げ 10.4% である。その他は 3 社以下の回答である。

次に「一位～三位」に挙げた答えをみると、こちらも「購買力の他地域への流出」がトップで、前期に 24 社から 31 社と大きく増え 64.6% を占めた。次は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」で、前期 23 社の 46.9% から 2 社増の 52.1% であった。続いて、「需要の停滞」で前期 27 社の 55.1% から 4 社減の 47.9% であった。さらに「消費者ニーズの変化」と「販売単価の低下、上昇難」が 18 社ずつで 37.5% と続いている。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	10	20.0
飲食物品小売業	13	26.0
自動車・自転車小売業	4	8.0
家具・建具・じゅう器小売業	7	14.0
その他小売業	16	32.0
合 計	50	100.0

売場面積別

売 場 面 積	企業数	構成比(%)
50 ㎡未満	24	48.0
50 ㎡～100 ㎡未満	19	38.0
100 ㎡～200 ㎡未満	5	10.0
200 ㎡～500 ㎡未満	1	2.0
500 ㎡～1000 ㎡未満	1	2.0
合 計	50	100.0

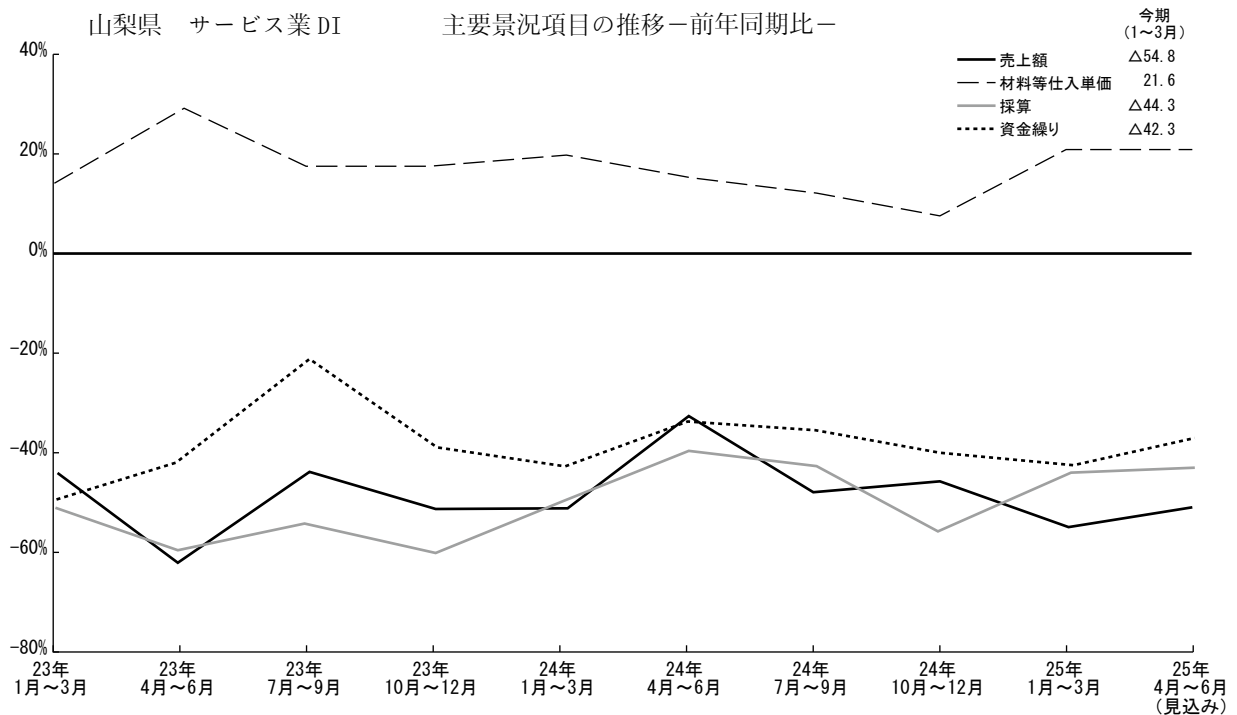
従業員規模別

従業員数	常 雇 い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2 人以下	43	86.0	39	78.0
3 人～5 人以下	7	14.0	8	16.0
6 人～10 人以下	0	0.0	2	4.0
21 人以上	0	0.0	1	2.0
合 計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

1. 景況概観

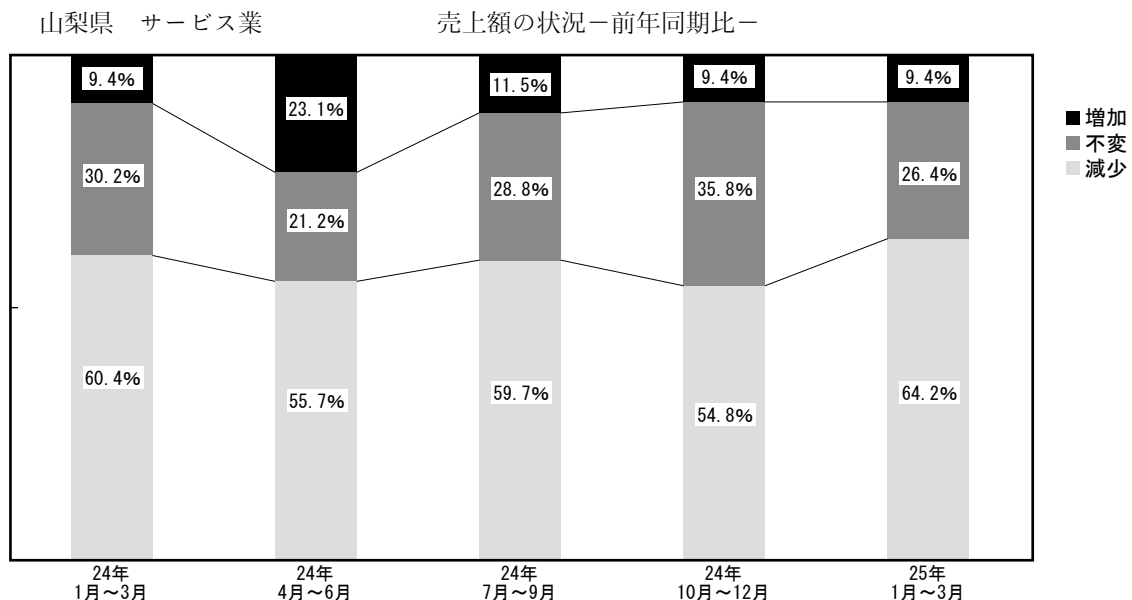
サービス業における売上額D I は、前期マイナス 45.4 からマイナス 54.8 へと 10 ポイント近く悪化した。来期の見通しについては、いくらかの改善期待のマイナス 50.9 である。材料等仕入単価D I は、前期 7.7 から 21.6 へとかなり跳ね上がる。来期の見通しも、今期と同様のD I である。ここに来て、材料仕入単価が上昇しているのは気にかかるところである。採算D I は、前期マイナス 55.8 から 11.5 ポイント改善しマイナス 44.3 であった。来期の見通しについては、僅かな改善であるがマイナス 42.3 と回復傾向を見せている。資金繰りD I については、前期マイナス 40.0 からマイナス 42.3 へと少々悪化である。来期の見通しは、マイナス 36.6 と改善傾向である。売上額等 3 つのD I が悪化する中で、採算D I だけが改善しているのは特徴的なことである。



2. 主な項目で見る業況

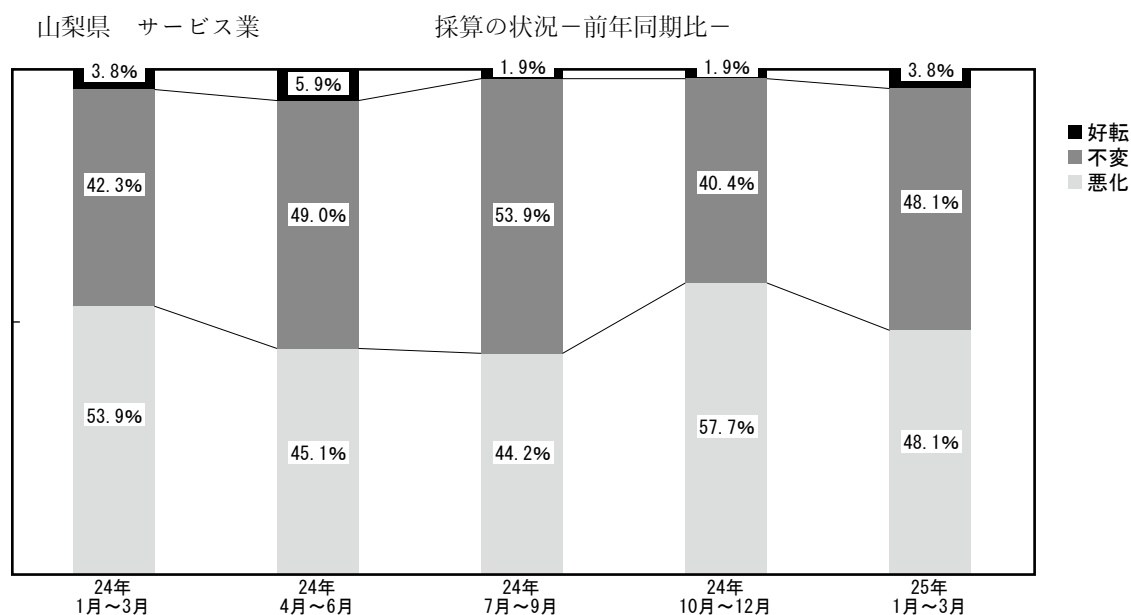
(1) 売上額

この 1 年間余りの「売上額」の推移状況から、今期売上額D I マイナス 54.8 の分析をすると「増加」が前期 5 社の 9.4% と変化なく、「不変」は前期 19 社の 35.8% から 5 社減の 26.4% に、「減少」は前期 29 社の 54.8% から 5 社増の 64.2% になった。5 社が「不変」から「減少」に移動し、売上額D I が悪化した。



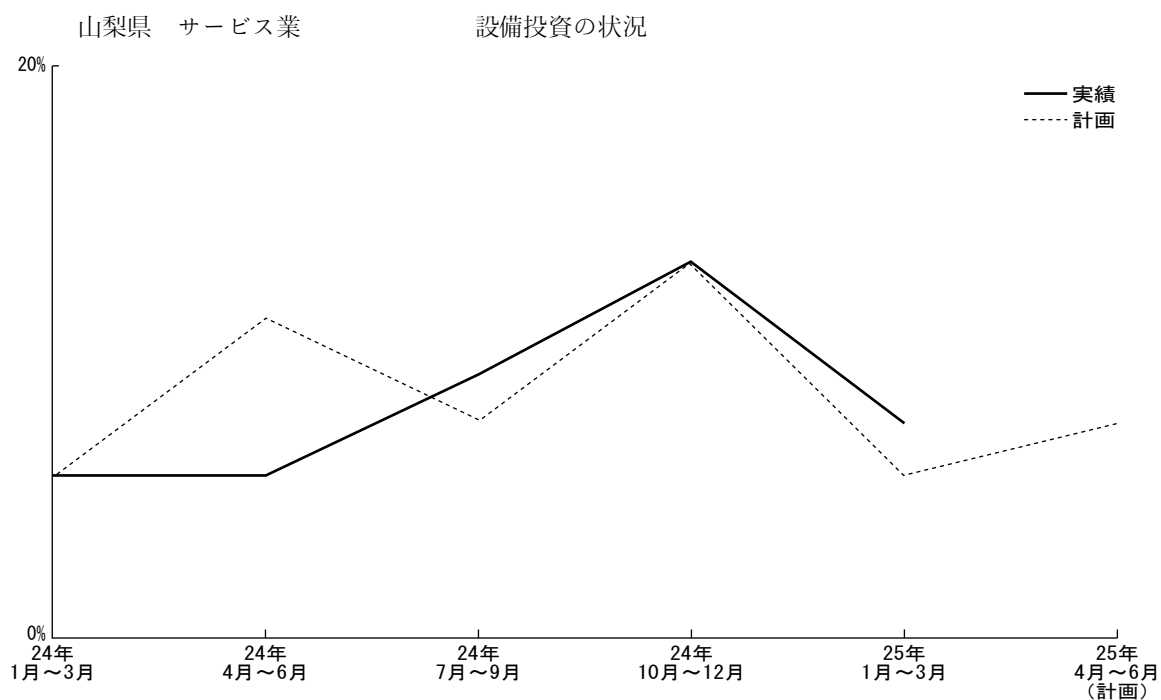
(2) 採 算

今期採算D I マイナス 44.3 の内訳は、「好転」が前期 1 社のみの 1.9% から 2 社になり 3.8% になった。「不変」は前期 21 社の 40.4% から 4 社増の 48.1% に、「悪化」は前期 30 社の 57.7% から 5 社減で「不変」と同数の 48.1% になった。何といても、「悪化」の回答が 5 社減少したのが D I の改善に繋がった。



(3) 設備投資

サービス業で「設備投資」を行った企業は、前期 7 社から 4 社に減少した。その内容は「建物」が 3 件と「車両・運搬具」が 1 件であった。来期の計画についても、今期と同様 4 社が予定している。その投資の内容は、「建物」の投資が 2 件、「土地」「サービス」「車両・運搬具」「OA 機器」「その他」がそれぞれ 1 件である。前期の回答で今期計画されていたものが、来期に先送りされたようである。

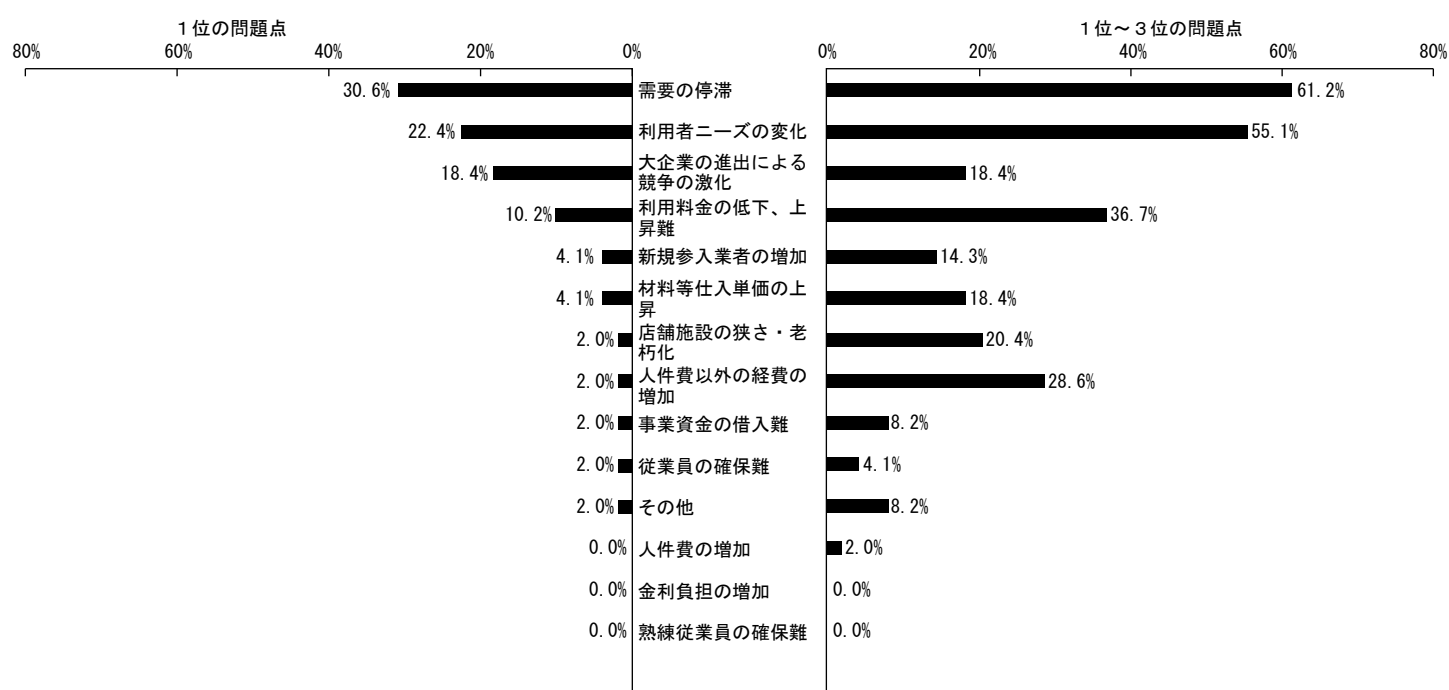


(4) 経営上の問題点

サービス業の「経営上の問題点」において、「一位」に挙げた項目の中で最も多い回答は、前期に引き続き「需要の停滞」で前期 17 社の 33.3% から 2 社減であるが 30.6% を占めた。続いて「利用者ニーズの変化」も相変わらず 2 番目で、前期 9 社の 17.6% から 2 社増えて 22.4% であった。3 番目も前期と同様の「大企業の進出による競争の激化」で、前期 8 社の 15.7% から 1 社増の 18.4% であった。次も前期と同じ順位の「利用料金の低下、上昇難」で、前期 6 社の 11.8% から一つ減らして 10.2% である。その他の回答は、2 社以下が答えるものであった。

次に、「一～三位」に挙げたものを見ると、こちらも「需要の停滞」がトップで前期 29 社の 56.9% から 1 社増の 61.2% となった。次は「利用者ニーズの変化」で、前期「需要の停滞」と一位を分け合った 29 社から 2 社減の 55.1% であった。次に多いのは「利用料金の低下、上昇難」で、前期 17 社の 33.3% から 1 社増えて 36.7% であった。続いて「人件費以外の経費の増加」を 14 社が挙げ 28.6%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が 10 社の 20.4%、そして「大企業の進出による競争の激化」と「材料等仕入単価の上昇」を 9 社が挙げて 18.4%、さらに「新規参入業者の増加」が 7 社の 14.3% となっている。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
一般飲食店	13	25.0
宿泊業	8	15.0
自動車整備業	7	13.0
洗濯・理美容業	19	36.0
その他のサービス業	6	11.0
合 計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇 用 形 態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	42	79.2	38	71.7
3 人～5 人以下	5	9.4	8	15.1
6 人～10 人以下	5	9.4	5	9.4
11 人～20 人以下	1	1.9	1	1.9
21 人以上	0	0.0	1	1.9
合 計	53	100.0	53	100.0